

新型コロナウイルスワクチンを 安全に接種するための注意とポイント

新型コロナウイルスワクチンを短期間で多くの人に安全に行うための注意とポイントを解説します。このワクチンはこれまで国内であまり行われていなかった**筋肉注射**です。筋肉注射の手技についてもわかりやすく紹介します。

監修

厚生労働行政推進調査事業費補助金
“新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業”
「ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究」

研究代表者：廣田良夫
分担研究者：岩田 敏／岡田賢司／中野貴司

研究協力者：多屋馨子
監修協力者：峯 真人／中山久仁子

接種会場の環境

プライバシーが保護され、密を避けた環境を用意してください。
被接種者ごとに手指衛生を徹底してください。
救急対応の手順や物品を確認してください。

予診

集団接種の場合、予診は、問診と視診を基本とします。
接種要注意者・基礎疾患を有する人など、予診医が必要と認めた人には
聴診・触診を行います。

予診時に確認すること【リスクコミュニケーション】

以下については、必ず問診で確認してください。

ワクチンの効果と
副反応についての理解

予防接種健康被害
救済制度の認知

重いアレルギー反応
の既往



接種不適当者に該当する症状が悪化している場合や全身状態が悪い場合には、接種を延期して、**体調が良くなってから接種を行う**ことを検討します。

集団接種で問診医が接種に迷う場合は、**かかりつけ医**などでの個別接種を検討していただくのもよいでしょう。

接種不適当者（接種を行いません）

- ① 明らかな発熱を呈している。
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかである。
- ③ 接種しようとする接種液の成分に対してアナフィラキシーを呈したことが明らかである。
- ④ その他の理由により予防接種を行うことが不適当な状態である。

接種要注意者（接種の適否を慎重に判断してください）

- i 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症又は凝固障害を有する人
- ii 過去に免疫不全の診断がなされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- iii 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する人
- iv 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある人
- v 過去にけいれんの既往のある人
- vi 接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを呈するおそれのある人

接種前のチェック

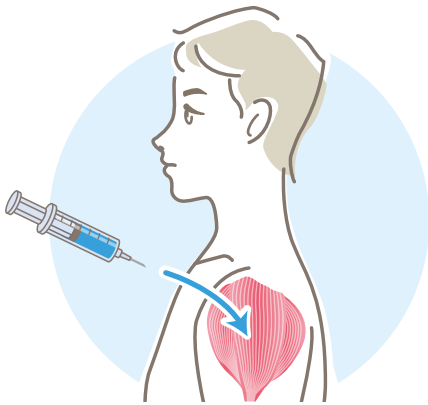
まず、お名前、そしてアルコール過敏症かを確認してください。
アルコール過敏症の場合、アルコールフリー（クロルヘキシジングルコン酸塩含浸など）の消毒綿を使います。



過緊張、採血等で気分がわるくなることがある人は、ベッドに横になっての接種も考慮します。

筋肉注射のポイント

新型コロナウイルスワクチンは筋肉注射です。
通常、三角筋の中央部に注射します。



被接種者ごとに、必ず手指消毒をしてください。
手袋をしている場合は、手袋をはずして手指消毒をしてから、新しい手袋を着用してください。

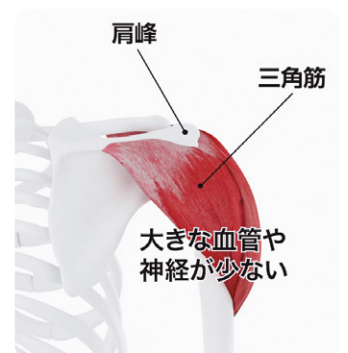
被接種者には腕を下におろし、リラックスした姿勢をとってもらいます。



1 穿刺部位の確認

注射部位は三角筋中央部です。肩峰から真下に3横指程度下の位置が目安になります。
接種部位が上方すぎると**ワクチン関連肩関節障害**を、下方すぎると**橈骨神経障害**を起こすリスクがあるので、注意が必要です。

*接種部位の目安として肩峰下の前後腋窩線を結ぶ線の高さを推奨する報告もあります。



2 穿刺部位の消毒

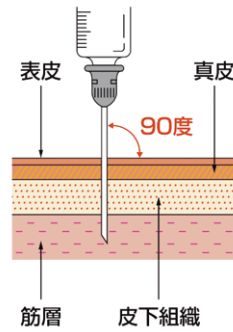


穿刺部位を中心から外側に向けて円を描くように、直径5cm以上の範囲を消毒綿で拭いてください。
アルコールが乾燥するまで待ちます。

3 穿刺

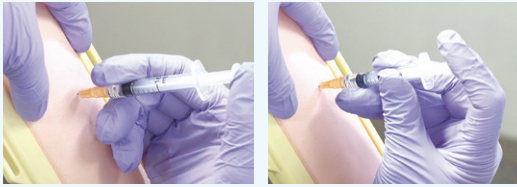


利き手でシリンジを持ちます。
注射部位周辺の皮膚を軽く広げるように伸展させてから三角筋の外縁に手を添えます。
注射針を皮膚に約90°の角度で素早く刺してください。



大事なことは
筋肉内に針を刺し、
薬液を注入
することです。

短いシリンジの場合



長いシリンジの場合



シリンジの持ち方に、決まりはありません。支持しやすい持ち方で接種してください。

注射針について

通常、太さ25G、長さ25mmのものを使いますが、年齢・体格に応じて、適切に筋肉内に接種できるものを選んでください。

高齢者など筋肉量の少ない人の場合は長さ16mmの針を。ただし、付け替える際に薬液が漏れたり汚染させないように十分な注意が必要です。



1 薬液を注入



三角筋には大きな血管がないので、陰圧をかけて血液の逆流を確認する必要はありません。

シリンジと注射針が安定するように工夫して持ち、適度な速度で注入してください。

2 抜針



穿刺部位に消毒綿をあて、素早く針を抜いてください。

3 消毒綿で注射部位を押さえる



接種後は揉まないで、軽く押さえます。抗凝固療法や抗血栓療法を受けている人には、最低2分間強めに押さえてもらいます。

4 使用済の針の処理



針刺し事故防止、および感染の危険があるため、針はリキャップせずに注射器ごとただちに専用廃棄容器に捨ててください。

5 接種直後に声かけをする



被接種者に終了したことを伝え、異常がないか声をかけてください。



接種後は、必ず手指消毒をしてください。
手袋をしている場合は、手袋をはずして手指消毒をしてから、新しい手袋を着用してください。

接種後の注意

血管迷走神経反射

接種後は、血管迷走神経反射による失神や気分不良が起こる場合があります。観察室などへの移動にも注意してください。

アナフィラキシー

アナフィラキシーが疑われる場合は、アドレナリン製剤が第一選択になります。事前に、用意しておく必要があります。

血管迷走神経反射とアナフィラキシーの特徴

	発症時期	症状
血管迷走神経反射	接種直後から	徐脈、 血圧低下
アナフィラキシー	接種数分後から	頻脈、皮膚症状 (膨疹、丘疹)、 血圧低下

◆接種後の観察

観察室では、背もたれのある椅子で15分ほど休んでもらいます。即時型アレルギー反応やアナフィラキシーの既往のある接種者は、特に注意するために30分の経過観察が必要です。

◆接種後の注意を伝えてください

伝えること

- 接種日は激しい運動は控えてもらうこと。
- 入浴はかまわないこと。
- いつもと違う感じがしたら、接種担当医やかかりつけ医、相談センターに連絡し、予防接種をしたことを伝えて相談すること。

